

みなさまこんにちは。
最近ニュースを聞いておりますとインド国内で猛暑による死者が 2000 人を超えたとの報道がございました。情報によると最高気温 47 度以上が 2 週間続いた地域もあるそうです。考えただけでもめまいをおこしそうです。私自身インドに個人旅行で伺った時、40 度ぐらいの気温に大げさではなくすこし生命の危機を感じた記憶がありますが、47 度となると冷房なしで人間が過ごせる気温ではありません。かといって、人間に自然の猛威を調整できるちからもございませんので現地の方々はただただ状況が落ち着くのを待つしかないのが過酷な苦悩となっているのではないのでしょうか。毎年温暖化ということが世界的問題となる中で今回のインドにおける猛暑もそういった影響を含んでいるようにも思われます。このことは対岸の火事ではなく実際日本も近い状況がおこりうる可能性があることも否めないことを教えてくれているように思います。東京でも既に 5 月、30 度を超える日が何日かありましたが、今年の夏の猛暑も避けられな

いようにも思えます。

さて、こちらは気温の問題ではありませんが私の実家がある鹿児島県の桜島が先日今年最大の噴火をおこし 4000 メートル以上の噴煙が上がったそうです。今年に入り 580 回以上噴火をしております活動が活発化しているようです。専門家によると東日本大震災後、全国の火山が活発化しているとの見解がされているそうです。

5 月 22 日、実家である妙蓮寺の降誕会法要の講師として帰郷した際、鹿児島市内からフェリーに乗り少し噴煙を上げているこの桜島を見ながら思ったのですが、私も鹿児島を離れ 30 年程の間いろいろな地域の方々と交流をもちました。鹿児島県民の県民性というものになにか独特な穏やかさを感じるのやはり桜島の影響がつよいのかなあと。

桜島は毎日 3 回以上噴火し近隣に噴煙をまき散らしておりますがこのことも人間のちからでどうすることもできないことであります。私の少年時代に大人の方々からよく耳にした言葉に、「だいか（誰か）桜島に蓋をしっくれんか（してくれ

ないか）！」という言葉を出します。しかしこの言葉を話される時は本気で怒っているのではなく、どことなくこやかな表情での話ぶりでした。その言葉には毎日噴煙をまき散らす厄介者という気持ちより鹿児島にはなくてはならないシンボルがやることなのでまあ仕方ない。といった自然現象を受け入れている姿勢が見うけられました。この桜島の不思議な魅力も独特で穏やかな県民性と繋がっているのではないかと思います。さて、天候も桜島も自然のはたらきですが、親鸞聖人が「自然（じねん）」と申される時は阿弥陀様のお慈悲のはたらきのことを示されております。この「自然」のはたらきがそのまま南無阿弥陀仏となって現れてくださっております。原口針水という和上のお言葉に「われ称えわれ聞くなれど南無阿弥陀仏 つれてゆくぞの親のよびごえ」という歌があります。南無阿弥陀仏とは「おまえを必ず本当の真実の世界に生れさせてみせるぞ」との阿弥陀様の力強い呼び声です。この呼び声を頼りに生き抜く教えが浄土真宗です。合掌